43 ^{99m}Tc-PYP SPECTによる心筋梗塞サイズの定量化 急性期冠動脈再疎通例における予後の指標

樋口誠司 原田征樹 山田明 鍋山庄蔵 緒方行男
芦原俊昭 福山尚哉 松山赤十字病院循環器科

急性前壁梗塞33例を血栓溶解療法で再疎通し得えたⅠ群と通常治療のⅡ群にわけ、^{99m}Tc-PYP 摂取領域が梗塞サイズの指標として有用かどうかを検討した。Ⅰ群において急性期^{99m}Tc-PYP SPECT(PYP)による梗塞サイズは慢性期の心プールシンチグラフィによる左室駆出率との間に有意な相関をえた。この相関は急性期^{201}Tl SPECTによるextent scoreと慢性期の左室駆出率との間の相関よりも良好であった。Ⅱ群では PYPによる梗塞サイズと慢性期の左室駆出率との間には弱い相関しか得られなかった。

PYPによる梗塞サイズは急性期に冠動脈の再疎通をえた前壁梗塞の重症度、予後の判定に良い指標であると考えられる。

44 心筋梗塞症(MI)の予後及び Quality of Life (QL)の評価における心臓核医学検査(CN)の意義

下方辰幸，真野謙治（名古屋記念病院），近藤 武，江尻和孝，安野泰史，竹内 昭（藤田学園保健衛生大学診療放射線技術学科），岡村正博，澤野隆志，古田敏也，黒川 洋，桜井 充，野村雅則，菱田 仁，渡辺佳彦，水野 康（同内科），古賀佑彦（同放射線科）

MIの慢性期の予後及びQLの評価におけるCNの意義について検討した。CNは，^{99m}Tc-ﾋﾟﾛﾘﾝ酸心筋ｼﾝﾁ(PYP)，^{201}Tl-心筋ｼﾝﾁ(M)，心ﾌﾟｰﾙ(P)を施行した。PYPからはCount法により，MからはCircumferential Profile法により，梗塞量を定量的に算出した。Pからは左室駆出率(EF)を求めた。EFが低く，梗塞量が大であるMIは退職する傾向がたったが，再発，満足度，自覚症状などのQLに関してはCNだけからは評価できなかった。CNによる梗塞量及びEFは，MIの予後に関して信頼できる情報を提供した。

Presented by Medical*Online